

全学統一入試

(前 期)

国 語

令和 8 (2026) 年度

試験学科
経営学科
ホスピタリティ・マネジメント学科
データサイエンス学科
経済学科
法律学科
国際関係学科
多文化コミュニケーション学科
現代社会学科
健康スポーツ科学科

試験時間 (60分)

解答 … 巻末

一、次の文章を読み、後の設問に答えよ。

わたしの知りあいの、そのまた知りあいに、阪神・淡路大震災のあと、近くの小学校の体育館へかなり長く焚き出しに通っていたひとりの女性がいる。彼女は、焚き出しのあいだに、避難所で生活しているある女性としばしば語らうようになった。その相手の女性というのは、受験生の息子をもっていたひとりで、その子をじぶんが殺してしまったと、じぶんに咎めの火箸を突きつけていた。深夜の受験勉強に疲れ、居間の炬燵で居眠りをしていると、いつもは「風邪をひくから」と二階の子どもの部屋に無理やり連れて上がるのを、よりによってその夜は、あまりに深く眠っているので起こすのがかわいそうになり、そのまま炬燵で寝させていた。そして翌日未明の、あの激震。二階は崩れ落ち、その子は階下で押し潰された。

彼女はその後、じぶんの不注意で息子が死んだという事実には A 耐えきれなくて、じぶんを責め苛みつづけた。

爛れたところの皮膚を、である。そして、ある日たまたま出会ったこのヴォランティアの女性に、じぶんの「とりかえしのつかない過失」について、 B 語りつづけたのだった。このヴォランティアの婦人が言うには、 C 彼女にで

きたことは、ただこのひとの話を聴くことだけだった。が、この聴くことだけが、爛れたこのひとのこのころの皮膚を、破れ目はいっぱいあっても、 D つぎはぎだらけであつても、かろうじて一枚つづりになった薄膜で被うことができた……。

さて、この話を聞いたときに、とっさに思いだしたことがある。中川米造が『医療のクリニック』のなかで引いているターミナル・ケアをめぐるアンケートのことだ。この調査の対象集団は、医学生、看護学生、内科医、外科医、ガン医、精

神科医、それに看護婦である。このアンケートは末期医療の研究者ふたり（柏木哲夫・岡安大仁）によって作られたものなので、専門家のあいだではよく知られたものなのだそうだが、そのなかにこんな設問があった。「わたしはもうだめなのではないでしょうか？」という患者のことばに対して、あなたならどう答えますか、という問いである。これに対してつぎのような五つの選択肢が立てられている。

- (1) 「そんなこと言わないで、もっと頑張りなさいよ」と励ます。
- (2) 「そんなこと心配しないでいいんですよ」と答える。
- (3) 「どうしてそんな気持ちになるの」と聞き返す。
- (4) 「これだけ痛みがあると、そんな気にもなるね」と同情を示す。
- (5) 「もうだめなんだ……とそんな気がするんですね」と返す。

結果は、精神科医を除く医師と医学生のがほとんどが(1)を、看護婦と看護学生の多くが(3)を選んだそうだ。その解釈はさておいて、精神科医の多くが選んだのは(5)である。一見、 イ ようにみえるが、じつはこれは解答で

はなく、「患者の言葉を確かに受けとめましたという応答」なのだ、と中川は言う。〈聴く〉というのは、なにもしないで耳を傾けるという ウ なのではない。それは語る側からすれば、ことばを受けとめてもらったとい

う、たしかな出来事である。こうして「患者は、口を開きはじめる。Eの知れない不安のFが何なのか、聞き手の胸を借りながら捜し求める。はつきりと表に出すことができれば、それで不安は解消できることが多いし、もしそれができないとしても解決の手掛かりは、はつきりつかめるものである」。

聴くことが、ことばを受けとめることが、他者の自己理解の場を劈く^{ひく}ということであろう。じつと聴くこと、そのこの力を感じる。かつて古代ギリシャの哲学者が《産婆術》と呼んだような力を、あるいは別の人物なら《介添え》とでも呼ぶであろう力を、である。

わたしがここで考えてみたいこと、それがこの〈聴く〉という行為であり、そしてその力である。語る、論ずという、他者にはたらきかける行為ではなく、論じる、主張するという、他者を前にしての自己Gの行為でもなく、〈聴く〉という、他者のことばを受けとる行為、受けとめる行為のもつ意味である。そしてここからが微妙なのだが、〈聴く〉という、いわば受け身のいとなみ、それについていろいろと思いをめぐらすことをとおして、〈聴く〉ことの哲学ではなく、〈聴く[、]

く[、]こととしての哲学の可能性について、しばらく考えつづけたいとおもうのだ。

〈聴く〉ということ、そのことをわざわざ「哲学」といういとなみにむすびつけることにな^エがしかの抵抗を感じるむきがあることは、もちろん予想される。ここで問題なのは、〈聴く〉というしかたでの他者への具体的なかわりであり、つまりはひととしての生き方なのであって、それは研究や分析といった個室の作業のなかではかえって見えにくくなるのではないかという疑念である。

が、「哲学」ということで、ことさらに西洋の哲学史、あるいは現在の大学でおこなわれている哲学の講義やゼミナールのことを思い浮かべなくてもよい。あるいは、書齋で頭をかかえ込み、もだえつつことばを紡ぎだす哲学者の像を思い描かなくてもよい。じぶんの存在とその意識について、あるいは世界の存在と構造について考えるということ、そしてそのことの可能性とさらにその権利根拠とをみずからに問いただしつつ、自己と世界について考えるということ、そうした思考のいとなみをかりに西洋人にならって「哲学」と名づけるならば、それはアカデミズムの内部の作業にはとても押し込めることのできないようなひろがりをもつことはあきらかである。

わたしたちは、最終的な解答があるのか不明なまま、しかもやはり問いつづける。ただ生きるだけでなく、考えながらしか生きられないものであるかぎり、わたしたちは「哲学」に潜在的にはかかわっている。「哲学」はその意味で、わたしたちが世界と自己について思考する、その回路ないしはバ^オイ^イ体としての《概念》を創造しつづけるいとなみである、ととりあえずは言うことができるだろう。

そういう「哲学」にとって、では、聴くことを問題にするというのはどういうことなのか。《聴くことの力》へと問いを向けるに先だって、いわば「序」のつもりでその間の事情を少し見ておきたい。

哲学はこれまでしゃべりすぎてきた……。

味もそっけない言い方が許されるとしたら、これがわたしがこれまでのアカデミックな哲学というものに漠然と感じてきたひっかかりである。

いきなりこのように書くと、哲学こそがまことのことば、つまりはロゴスを探究するいとなみなのであり、そういう哲学のことばが欠けているのであって、世間にはむしろいつわりのことばが氾濫しているのだと、あるいは訝しくおもわれるかもしれない。そして、ヨハネ福音書の冒頭のことば、「初めにロゴス「ことば」ありき。ロゴスは神とともにあり、ロゴスは神なりき」を思いだされるかもしれない。しかし、^カ語ることがまことのことばを封じ込める、ということがないだろうか。まことのことばを知るためにこそ、わたしたちは語ること以上に、聴くことを学ばねばならないということはないだろうか。くりかえして言えば、わたしがここで考えてみたいとおもうのは、この〈聴く〉ということの意味と力についてなのである。

〈話す〉ことの哲学についていえば、言語にかんする哲学的分析はとりわけ二十世紀の後半に分析哲学者たちによって、

a

 言語行為論や言語ゲーム論のかたちでくわしく論じられてきた。

b

、構造言語学者たちによってパロール（発話）の問題として、^{せいち}これまた精緻に論じられてきた。〈聴く〉ことの哲学的分析ももちろん、一部の哲学者たちのあいだで散発的に試みられなかったわけではないが、

c

ほとんど存在しないにひとしい。

d

 聴くことの哲学的実践などというものは、哲学じたいが論じ、書くいとなみであるかぎり、自己矛盾以外のなにもものでもなく、そういう可能性に思いをはせることすらなかったと言ってよい。

しかし話すためにはまず聴かれなければならない。話はつねに

e

 だからである。講演や講義などという形式は別として、ふつう一方が三十分、一時間と話しまくるような話のありかたは、話がひとひとのあいだで

生まれるものであるかぎり異様である。たとえば二人のあいだでの会話、ダイアログは、その名の意味するように、ことばを交わすこと、ロゴスを分かちもつことである。話すだけの話などというものは本来ありえないはずだ。ということは、哲学的に話すこともまたモノログではありえず、^{潜在的には}

f

 を内包しているはずだということになる。

ことばが矢のように飛んできるとか、ことばが胸に突き刺さる、ことばが一々当たる、ことばに棘^{とげ}がある、ことばがもつれる、ことばが荒れている、そしてことばが冷たい、硬い、重い……。これらの表現は、まずは、比喩としてというより文字どおりに受けとられるべきであろう。ことばの中身もちろん重要であるが、ことばのきめもまた強くはたらくものである。あるいは、語られた内容ではなく、むしろ語りかたに魅せられるということもある。哲学はこの点、ロゴスを重視するあまり、そうしたことばのきめに無神経でありすぎてきたということはないだろうか。哲学の内容ではなく、哲学を語るそのことばの肌ざわりが、ひとを支え、またひとを傷つけることがあることに、無自覚でありすぎたということはないだろうか。翻訳の哲学書の文体を見ると、ふとそうおもわずにはいられないことがある。いや、字面だけでそう感じてしまうことさえある。

哲学者はしばしば、入るか入らないかあらかじめ意志を確認したうえで手荷物のチェックをする門番のような顔つきをする。ここで、鞆を覗いて有無がチェックされる手荷物とは、「哲学的」な態度や方法のことである。〈略〉ともあれ、「善きまなざし」と悪しきまなざし、正しい話と誤った話——倫理と論理とは法則表ではじまるのではなく、すでに日常のさまざま

な迷誤と巻きずえとによってはじまっている」という、現代ドイツの現象学者、ベルンハルト・ヴァルデンフェルス[※]のことは、議論に先だって、いちど噛みしめておきたい。そのうえで、哲学のことばのきめについて、さらには聴くこととしての哲学の力について、考えてみたいとおもうのだ。

①　　いうまでもないが、話すためには、聴かれるだけでなく、みずからも相手の語りに耳を傾けることが必要である。
②　　ところでこの〈聴く〉という行為が、哲学のいとなみとしてなされるためには、ひとびとが話すそのおなじ場所に哲学が場所をもちうるのだからなければならない。③　　そしてこれまたいうまでもなく、ひとびとは哲学のことばを話すとはかぎらない。④

では、哲学者にひとびとの前でいったいなにができるのか。とりわけ、「哲学」ということばがせいぜい百年ちよつとの歴史しかもたず、したがって「哲学」がイメージとしては流通していても、ほとんどのひとがその実際にふれたわけでもなく、そして哲学者と称するひとたちのあいだでも、小さな渦のような内輪の論争こそあれ、その定義や方法にかんして意見の一致があるとはいいがたいこの地で、哲学をひとびとのあいだにもちだすことじたいが、なにか意味のあることなのだろうかという疑問が生まれることも、十分に予想がつくことである。

他方でしかし、《知識》[※](グノーシス、knowledge)ではなく《智慧》(ソフィア、wisdom)の粹とされる哲学的な知こそ、経験をくりかえし折り重ねるところではじめて、織り目のように浮かび上がってくるものであつて、そういう時間の澱^{おち}をたつぷり含み込んだ哲学のことばは、それを哲学者がもつとも正しく語るのかといえは、そうではあるまい。哲学者は古

来の哲学に学ぶのであつて、その哲学のことばはかならずしも哲学者が発したものとはかぎらない。そういうことばを紡ぎだすひと、あるいは、じぶんとそれを取りまく世界を理解するための《概念》を創造するひとをこそ、ひとはかれの職業がなんであれ、哲学者と呼んできた、あるいはかれには哲学があると称してきたのである。その意味では「哲学」はこの地でそう呼ばれてこなかったにしても、やはりひとびとのあいだにあったはずなのである。

(鷺田清一^{わしだきよかず}『「聴く」ことの力——臨床哲学試論』による。ただし出題に際して表記・表現を変更し、一部省略・加筆した箇所がある。)

※　中川米造^{よねぞう}Ⅱ(1926—1997)日本の医師、医学者。

※　ベルンハルト・ヴァルデンフェルスⅡ(1934—)ドイツの哲学者。専門はフッサールを出発点とする現象学。

※　グノーシスⅡギリシャ語で「知識」の意。ヘレニズム時代に人間を救済へと導くとされた神秘的・直感的な「靈知」を指し、この靈知による救済を目指した宗教運動が「グノーシス主義」である。

問(一) 傍線ア「あまりに深く眠っているので起こすのがかわいそうになり、そのまま炬燵で寝させていた」の主語は誰になるか。次の1～6の中から最も適切なものを一つ選び、番号をマークせよ。(※「」は文中からの引用であることを示すものである。)

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1 「わたしの知りあい」 | 2 「そのまた知りあい」 | 3 「ひとりの女性」 |
| 4 「ある女性」 | 5 「その子」 | 6 「ヴォランティアの女性」 |

問(二) 空欄A～Dに入るべき語を次のⅠ～Ⅳの中から一つずつ選択した上で、その組み合わせとして最も適切なものを次の1～4の中から一つ選び、番号をマークせよ。

- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| Ⅰ どうしても | Ⅱ あるいは | Ⅲ くりかえし | Ⅳ そのとき |
| 1 A Ⅱ | B Ⅲ | C Ⅰ | D Ⅳ |
| 2 A Ⅳ | B Ⅰ | C Ⅱ | D Ⅲ |
| 3 A Ⅳ | B Ⅱ | C Ⅰ | D Ⅲ |
| 4 A Ⅰ | B Ⅲ | C Ⅳ | D Ⅱ |

問(三) 空欄イ、ウに当てはまる最も適切な表現をそれぞれ後に続く1～4の中から一つずつ選び、番号をマークせよ。

- | | |
|-------------------|----------------|
| イ 1 なんの答えにもなっていない | 2 当たり前の、陳腐な答えの |
| 3 答えとしての常識がない | 4 異様な、冷酷すぎる答えの |
| ウ 1 単純に受動的な行為 | 2 繊細な、熟慮の上での行為 |
| 3 過激に受動的な行為 | 4 親和的な、心温まる行為 |

問(四) 空欄E、F、Gに当てはまる最も適切な二字の熟語を、E、Fは後の1～6の中から、Gは7～10の中から一つずつ選び、番号をマークせよ。(※同じ番号を重複して用いないこと。)

- | | | | | | |
|------|------|------|-------|------|------|
| 1 実体 | 2 身体 | 3 解体 | 4 客体 | 5 得体 | 6 単体 |
| 7 実現 | 8 喪失 | 9 陶醉 | 10 表出 | | |

問(五) 傍線エ「なにがしかの抵抗を感じる」とあるが、これはどういうことか。次の1～4の中から最も適切な説明を一つ選び、番号をマークせよ。

- 1 聴くという行為は、ひととしての生き様と直接間接に関係してくるものであるから、アカデミックな「哲学」としてその行為を把握しようとするのは全く無意味だということ。
- 2 聴くという行為は、アカデミズムの中でもとりわけ上位に位置付けられる難解な「問い」の行為であるから、そもそも「哲学」という名称ではその行為を説明するのに極めて物足りないものであったということ。
- 3 聴くという行為は、じぶんの存在とその意識について、あるいは世界の存在と構造について考えるということであるのだから、そもそもアカデミズムとは全く無縁の行為なのではないかという疑念。
- 4 聴くという行為は、他者への具体的なかわりをもつものであり、それゆえアカデミズムの研究や分析といった個室の作業の中ではかえって見えにくくなってしまわないかという疑念。

問(六) 傍線オの「バイ」と同じ漢字を使っている熟語を次の1～5の中から一つ選び、番号をマークせよ。

- 1 塩バイ 2 触バイ 3 売バイ 4 バイ償 5 バイ養

問(七) 傍線カ「語ることがまことのことばを封じ込める」とはどのようなことか。その説明として最も適切なものを次の

1～4の中から一つ選び、番号をマークせよ。

- 1 世間にはいつわりのことばばかりが氾濫しており、その結果、まことのことばが肉眼で見えにくくなっているということ。
- 2 ロゴスを探究するいとなみが欠けることによって、まことのことばが世間に流通しなくなってしまったということ。
- 3 語ることにかんする哲学的な分析はこれまでくわしくなされてきたが、まことのことばを知るためには、語ること以上に聴くことを学ばねばならないということ。
- 4 これまで言語にかんする哲学的な分析はくわしく行われてきたが、〈聴く〉ことの哲学的な分析は全くされてこなかったということ。

問(八) 空欄 a ～ d に入るべき語を次の I ～ IV の中から一つずつ選択した上で、その組み合わせとして最も適切なものを次の

1 ～ 4 の中から一つ選び、番号をマークせよ。

I たとえば II ましてや III あるいは IV それでも

1 a Ⅱ b Ⅲ c Ⅰ d Ⅳ

2 a Ⅱ b Ⅰ c Ⅳ d Ⅲ

3 a Ⅳ b Ⅱ c Ⅰ d Ⅲ

4 a Ⅰ b Ⅲ c Ⅳ d Ⅱ

問(九) 空欄 e、f に当てはまる最も適切な表現をそれぞれ後に続く 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、番号をマークせよ。

e 1 だれかに向けてなされるもの 2 じぶんの利欲のためになされるもの

3 だれかを幸せな気持ちにさせるもの 4 じぶん自身に向けてなされるもの

f 1 聴かれるという権利 2 聴かれるという契機

3 話したいという我欲 4 話したいという決意

問(十) 次の一文が入るべき適切な箇所を、文中の ① ～ ④ の中から一つ選び、番号をマークせよ。

というか、哲学について語るのは日常の世界ではむしろ例外的であろう。

問(十一) 本文の内容に最もよく合致するものを次の 1 ～ 4 の中から一つ選び、番号をマークせよ。

1 精神を病みかけた患者にとって、じぶんの話を聴いてもらうということは、ことばを受けとめてもらったという、たしかな出来事である。

2 じつと聴くこと、そのことの力は、かつて古代ギリシャの哲学者が《産婆術》と呼んだ力に似ている。

3 時間の澱をたっぷり含み込んだ哲学のことばは、古来の哲学に学んだものであり真の哲学研究者が発したものである。

4 「哲学」ということばは西洋においてせいぜい百年ちよつとの歴史しか持たず、したがってその定義や方法にかんして意見の一致があるとは言いがたい。

二、以下の問(一)～(三)に答えること。

問(一) 次の各文について、傍線部の漢字には最も適切な読みを、カタカナには最もよく該当する漢字を、それぞれ後の1～5の選択肢から選び、番号をマークせよ。

① かねての願いが成就した。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|-------|---|-------|---|--------|
| 1 | せいしゅう | 2 | せいしゅ | 3 | じょうゆう | 4 | じょうじゅ | 5 | じょうしゅう |
|---|-------|---|------|---|-------|---|-------|---|--------|

② 近代には紡織産業が栄えた。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|-------|---|------|
| 1 | ほうしよく | 2 | ほうせき | 3 | ほうしき | 4 | ほうしよく | 5 | ほうせき |
|---|-------|---|------|---|------|---|-------|---|------|

③ 凡例を確認してから読む。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|---|-------|---|------|
| 1 | ほんれい | 2 | ぼんれい | 3 | およそれい | 4 | ぼんりょう | 5 | はんれい |
|---|------|---|------|---|-------|---|-------|---|------|

④ 契約書に押印を求める。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|--------|---|------|---|------|
| 1 | おういん | 2 | こういん | 3 | おさえじるし | 4 | こうはん | 5 | おうなつ |
|---|------|---|------|---|--------|---|------|---|------|

⑤ 悪事をソソノカされた。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 拐 | 2 | 魅 | 3 | 唆 | 4 | 惰 | 5 | 拘 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

⑥ 資料のサンイツを恐れる。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 散一 | 2 | 賛引 | 3 | 散逸 | 4 | 蚕市 | 5 | 賛一 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

⑦ ユイシヨある庭園を訪れる。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 由緒 | 2 | 結緒 | 3 | 能書 | 4 | 由緒 | 5 | 結緒 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

⑧ ハチクの勢いで勝ち進む。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 鉢句 | 2 | 破竹 | 3 | 蜂句 | 4 | 端畜 | 5 | 波竹 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問(二) 文中の空欄ア～シに入る最も適切な表現を、それぞれ後の1～20の選択肢から選び、番号をマークせよ。(同じ番号を重複して選ばないこと。)

ジェンダー史の出発点は、性差は **ア** 的なものではなく、作られたもの、という認識である。しかも、その女／男や女らしさ／男らしさは文化や社会によって作られるので、時代や地域によって異なり、また階層や **イ** によっても違っている。女性史、とりわけ初期の女性史は女や男を一括りにして把握しがちであったが、ジェンダー概念は女性や男性を固定的なものではなく、文脈に応じて生みだされ、 **ウ** され、変化している歴史的産物であると捉えるため、同じ女性間あるいは男性間での差異の存在が前提になっている。また従来の女性史や女性と男性の歴史、あるいは男性史が、両性の相互関係や **エ** 関係を考察する場合には、女性と男性を二項対立的な存在として想定していたのに対し、ジェンダー史は、女性と男性を切り離さずに、 **オ** の互いの存在によって定義されるものとみなし、両者の間に引かれる差異の切断線、すなわち差異化の過程に注目する。この差異化によって、二項対立的なジェンダー（性差）が形成されるのである。

女性史は、歴史のアクターとしての女性の経験を **カ** 化する叙述的な歴史であったが、ジェンダーの歴史学は **キ** 的である。ジェンダーは、政治、経済、社会、文化というあらゆる領域において **ク** 化や差異化、序列化が行われる時の基準となるカテゴリーとして作動するので、そのメカニズムを見ることによって、歴史形成のプロ

セスを解明できる。ジェンダーは、 **ケ** や価値観、アイデンティティを形成し、行動様式や活動空間を規定し、役割分担や領域分離を生みだし、 **コ** や政治および経済制度の構成要素となる。ジェンダー史は、「 **サ** 」あるいは「両性関係とは無関係」とされてきた、あらゆる領域にジェンダーが関係していると主張したが、ジェンダーは、まさに **シ** を作りだす力、社会編成をうながす力として作用している。それゆえジェンダーという **キ** 概念は、歴史学全体にとって不可欠なものなのである。

(ひめおか 姫岡とし子『ジェンダー史10講』による。ただし出題に際して表記・表現を変更し、一部省略した箇所がある。)

1	秩序	2	実態	3	宗派	4	中立	5	再生産
6	双壁	7	記憶	8	監督	9	規範	10	本質
11	構造	12	一对	13	可視	14	有効	15	分析
16	支配	17	思索	18	法律	19	民族	20	公正

国 語

【一】										
6点	4点	各4点	4点	6点	3点	6点	各3点	各3点	4点	4点
問(十) 2	問(十) 4	問(九) e 1 f 2	問(八) 4	問(七) 3	問(六) 2	問(五) 4	問(四) E 5 F 1 G 10	問(三) イ 1 ウ 1	問(二) 4	問(一) 4
【二】										
各2点				各2点				各1点		
問(三)				問(二)				問(一)		
①	ケ	オ	ア	⑤	①	②	③	④	①	4
5	9	12	10	3	4	4	3	5	4	4
②	コ	カ	イ	⑥	②	③	⑦	④	②	4
4	18	13	19	3	4	4	1	5	4	4
③	サ	キ	ウ	⑦	③	④	⑧	⑤	③	5
8	4	15	5	1	5	4	2	1	5	5
④	シ	ク	エ	⑧	④	⑤	⑨	⑥	④	4
1	11	1	16	2	4	5	3	1	4	1

【一】〇〇点満点

5	1
八	従
6	2
棲	十
7	3
唱	担
8	4
坦	住

- ① 岡目 ☐ 目 ② 行 ☐ 坐臥 ③ 虚心 ☐ 懐 ④ 合 ☐ 連衡

問(三) 次の①～④の四字熟語の空欄に入る字を、それぞれ後の1～8の選択肢から選び、番号をマークせよ（同じ番号を重複して選ばないこと）。

全学統一入試

(前 期)

英 語

令和 8 (2026) 年度

試験学科
経営学科
ホスピタリティ・マネジメント学科
データサイエンス学科
経済学科
法律学科
国際関係学科
多文化コミュニケーション学科
現代社会学科
健康スポーツ科学科

試験時間 (60分)

解答 … 巻末

I. 次の1～10の英文の（ ）に入る最も適切なものを①～④から1つずつ
選び、マークしなさい。

1. He is one of the most talented musicians () I have ever met.

- ① which ② whom ③ whose ④ what

2. They were surprised () how quickly the weather changed.

- ① for ② of ③ by ④ to

3. Our team leader insisted that the report () by next Monday.

- ① is submitted ② be submitted
③ was submitted ④ submitting

4. My sister didn't enjoy the movie, () the impressive special
effects.

- ① despite ② because ③ although ④ since

5. My grandmother spoke so softly that I could hardly () her.

- ① hear ② heard ③ hearing ④ to hear

6. Our team needs to () a decision before the deadline.

- ① arrive ② place ③ grant ④ make

7. She has been working here () 2016.

- ① from ② by ③ since ④ for

8. I must () my keys somewhere in the living room. I can't find
them in the kitchen or my room today.

- ① leave ② have left ③ leaving ④ had left

9. I asked two people the way to the post office, but () could help
me.

- ① both of whom ② either of them
③ both of them ④ neither of them

10. Jessica started reading first thing in the morning, and by early
afternoon, she had read the () novel.

- ① all ② whole ③ each ④ every

II. 次の1～10の英文の下線部の意味に最も近いものを、①～④から1つずつ選び、マークしなさい。

1. She conceived a brilliant idea while she took a walk.

- ① forgot ② imagined ③ copied ④ rejected

2. The latest government policy will affect many people.

- ① influence ② observe ③ protect ④ scare

3. Because of his improper behavior, the fan was banned from attending any local sporting events.

- ① allowed ② punished ③ invited ④ prohibited

4. Their company is trying to acquire new customers that are between 15 and 25 years old.

- ① lose ② attract ③ ignore ④ utter

5. The coach was content with the athlete's performance.

- ① confused ② bored ③ satisfied ④ required

6. In order to terminate the subscription, you must scroll down to the bottom. Then click the button for confirming your choice.

- ① start ② end ③ tackle ④ ruin

7. The young boy shouted to his brother for help.

- ① whispered ② demanded ③ objected ④ yelled

8. Pedestrians hurried across the broad and straight road.

- ① narrow ② wide ③ busy ④ desperate

9. Sofia is one of the most reliable members on our team.

- ① consistent ② conservative
③ constitutional ④ confident

10. The warning signs were overlooked.

- ① detected ② realized ③ ignored ④ respected

Ⅲ. 次の 1～5 の英文とほぼ同じ意味のものを①～④から 1 つずつ選び、マークしなさい。

1. In her spare time, she likes to play the violin.

- ① In her free time, she likes to mend her violin.
- ② In her free time, she enjoys playing the violin.
- ③ The violin is her favorite instrument to pretend she is busy.
- ④ She kills time by playing her violin for a living.

2. Not only did he file the documents, but he also organized them efficiently.

- ① The documentation was filed legally and casually by him.
- ② In addition to filing the papers, he arranged them neatly.
- ③ Without any margin of error, he carefully placed the files under his care.
- ④ The organization of the files was recorded by his random actions.

3. None of us wanted to take part in the quarrel between two members.

- ① The argument between two members was something none of us wanted to get involved in.
- ② None of us reflected on our differences as the two members clashed with each other.
- ③ The terrible fight between the two members forced us to lock heads with everyone.
- ④ All of us wished to engage in the dispute between two individuals.

4. I remembered to bring my umbrella today.

- ① I can't recall if I brought my umbrella with me today.
- ② Today, I forgot to check the forecast to see if I needed my umbrella.
- ③ I am thankful that I hid my umbrella for today.
- ④ Today, I made sure to pack my umbrella.

5. Everyone in the room turned to stare at him as soon as he walked in.

- ① Upon his arrival, everyone in the room turned to gaze at him.
- ② All the people in the room spun around him to look at the entrance.
- ③ As the crowd began to gather, he stopped to take turns around the room.
- ④ Entering the room caused him to soon begin the process of greeting everyone.

IV. 次の会話文の (A) ～ (E) に入る最も適当なものを①～④から1つずつ選び、マークしなさい。

Two friends at a café

Lisa : Hey, this place looks new. It has a friendly feel to it.

Sonya : Yeah, I just found it last month. (A)

Lisa : I really like the atmosphere! It reminds me of my favorite restaurant.

Sonya : (B)

Lisa : What do you recommend here?

Sonya : The caramel latte is amazing. (C)

Lisa : Sounds good. I'll order that.

Sonya : Great! I'll get the same.

Lisa : (D)

Sonya : Sure, the French fries are good. They come in a basket.

Lisa : Okay, let's share them. We can think about desserts later on.

Sonya : That sounds good. Let's order.

Lisa : By the way, do they have Wi-Fi here?

Sonya : (E) Those posters on the wall have the login and password for everyone.

Lisa : Great! The owner must be really nice.

Sonya : Yes, and if you need to charge your phone, you can also plug it into this slot over here.

Lisa : Wonderful!

Sonya : They try to make customers happy.

Lisa : I know I haven't tried anything yet, but let's come back here again!

Sonya : Certainly!

(A) ① Do you know the owner?

② What do you think?

③ Guess how much it costs?

④ When is the best time to visit?

(B) ① You have too many friends.

② I demand another answer.

③ I'm glad you do.

④ I knew you'd hate it.

(C) ① It's their best drink.

② You should avoid it.

③ It's too sweet for me.

④ You can see it in the atmosphere.

(D) ① Is it safe to consume?

② Are you already full from the restaurant?

③ Should we order something else?

④ Can we talk to the owner?

(E) ① Yes, and it's free.

② There's always a hidden charge.

③ No, it doesn't exist.

④ It's first come first serve.

V. 次の英文を読み、(A) ～ (E) に入る最も適当なものを①～④から1つずつ選び、マークしなさい。

To seafood lovers, *oysters can be a delicious treat. Others (A) oysters as a source of precious pearls. But to Demi Johnson, of Gulfport, *Mississippi, oysters are environmental superstars. “They’re really important,” the 15-year-old told *TIME for Kids*. A single oyster, for example, can *filter up to 180 to 190 liters of seawater a day, removing *algae and harmful *organisms. Big groups of oysters form *reefs, which provide *habitat for hundreds of other sea creatures. Plus, reefs protect against *erosion.

Demi learned all of this through oyster gardening. That’s the process of raising oysters in cages for *conservation purposes. When she started oyster gardening, in 2022, “I knew absolutely nothing,” Demi says. Today, she’s something of (B). This school year, Demi earned a master oyster gardener certificate after completing a free course run by the Mississippi Oyster Gardening Program (MOGP). Now she’s spreading the word. “I want others to get into this,” Demi says. “You don’t have to do a lot” to take care of your oyster garden, “but the impact it has for the environment, it’s great.”

Oysters used to be plentiful in Mississippi’s *coastal waters. But their numbers have seen a big drop because of human-made and natural (C), such as oil spills and hurricanes. That’s according to the Mississippi Department of Marine Resources.

Oyster gardening is a way to help restore the oyster population. “Anyone can get involved,” MOGP research assistant Emily McCay says. All that’s needed is access to a *dock or *pier. Demi started oyster

gardening as a seventh-grade Girl Scouts project. When a hurricane damaged her *troop leader’s dock, McCay helped Demi find a new location.

During oyster gardening season, Demi and her mom go to Schooner Pier, on Biloxi Bay. Demi has nine cages. “Once a week I go out there,” she says. She pulls the cages from the water, one by one. She shakes each cage to remove algae and mud, then checks for *predators, such as snails and crabs. Sometimes, she takes her oysters out for (D). “I just kind of wash them off and just see how they’re doing,” she says.

This spring, oysters grown by Demi and other local gardeners will be big enough to harvest. Demi will go with McCay to pick them up. Harvested oysters are then “planted” on existing reefs in the Mississippi Sound.

“Demi has gone above and beyond” as a volunteer, McCay says. “She’s actively helping out with so many different aspects of this program.”

Demi has raised more than 1,500 oysters, and has encouraged others to get involved. “She’s a great ambassador for the program,” MOGP leader P.J. Waters says.

She’s a great supporter, too. Last year, after winning a National Geographic award for her efforts to restore her state’s oyster population, Demi (E) the \$1,000 cash prize to the MOGP. “We were able to invest that into gear and oysters to grow the program,” Waters says.

Demi is happy to help. “It’s great to be able to do something” that benefits the environment, she says. “It’s a really good feeling.”

*oyster 「《貝類》カキ」 Mississippi 「(アメリカの) ミシシッピ州」
filter 「(液体・ガスなどを) ろ過する」 algae 「藻」
organism 「(特に小さな) 生物」 reef 「暗礁」

habitat 「(動植物の) 生息地」
erosion 「(川・波・風などによる土地の) 浸食」
conservation 「(動植物・森林などの) 自然の保護」
coastal 「沿岸の」 dock 「波止場、埠頭」 pier 「栈橋」
troop 「(ガールスカウトの) 団」 predator 「捕食動物」

- (A) ① assault ② mount ③ harm ④ value
- (B) ① a banker ② an expert ③ a prisoner ④ an amateur
- (C) ① victories ② disasters ③ advances ④ purchases
- (D) ① inspection ② petition ③ vacation ④ addition
- (E) ① fined ② punished ③ donated ④ commanded

[Adapted and abridged from “Oyster Duty.” By Jaime Joyce (*TIME for Kids*, March 6, 2025.)]
[出典:Oyster Duty, TIME For Kids, March 6, 2025 (c) by Cricket Media, Inc..
Reproduced with permission
All Cricket Media material is copyrighted by Cricket Media, Inc. and/or various
authors and illustrators. Any commercial use or
distribution of material without permission is strictly prohibited. Please visit
<http://www.cricketmedia.com/childrens-contentlicensing>
for licensing and <http://www.cricketmedia.com> for subscriptions.]

VI. 次の一連の英文①～⑤を読んで、(A) ～ (E) の答えとして最も適当なものを
①～④から1つずつ選び、マークしなさい。

① Scientists from the University of Sheffield have released a new study in the journal *eLife* that shows how *honey bees can make fast and accurate judgements. This research could help people create robots and *autonomous machines that are more efficient.

The study, led by Dr. HaDi MaBouDi from the University’s Department of Computer Science with Professor Andrew Barron from Macquarie University in Sydney, has uncovered the complex strategies that honey bees use to decide which flowers are worth exploring.

*honey bees 「ミツバチ」 autonomous machine 「自律型機械」

(A) According to section ①, which of the following is true?

- ① The study found that honey bees rely entirely on simple instinct when choosing flowers.
- ② The research suggests honey bees make slow and inaccurate decisions.
- ③ The findings could help improve the efficiency of autonomous machines.
- ④ The study was conducted by scientists from Macquarie University.

② Despite this *complexity, the research has revealed how the insects make rapid decisions about where to search for *nectar. Their decisions are highly accurate—more so than humans—despite the honey bee brain being the same size as a *sesame seed.

The study has enhanced our understanding of how the honey bee brain works and has evolved, and the Sheffield scientists say it is inspiring a new generation of robots and autonomous machines that can think like a bee—capable of making fast, accurate and efficient decisions *autonomously.

*complexity 「複雑さ」 nectar 「(花の) 蜜」 sesame seed 「ゴマ」
autonomously 「自律的に」

(B) According to section [2], which of the following is true?

- ① When searching for food sources, honey bees make decisions more slowly than humans due to their small brains.
- ② The study shows that honey bees are not accurate when choosing where to search for nectar.
- ③ The research has led to the development of robots that copy human behavior with tiny brains that also think like insects.
- ④ The study revealed that honey bees can make quick and precise choices despite having tiny brains.

[3] In the study, the researchers trained 20 bees to recognize five different colored artificial flowers. Blue flowers always contained *sugar syrup, green flowers always contained *tonic water with a bitter taste that bees dislike and the remaining colors sometimes had *glucose.

The team then introduced the bees to a garden with flowers designed for the experiment. The researchers then filmed each bee and tracked their path and timed how long it took them to make a decision on which flower to visit.

Results showed that if the bees were confident that a flower would

have food, they quickly decided to land on it—on average in 0.6 seconds. If they were confident that a flower would not have food, they made a decision just as quickly.

*sugar syrup 「砂糖と水を煮詰めて作った甘味料」
tonic water 「少量のキニーネ・レモン・ライムなどで風味をつけた炭酸飲料」
glucose 「ブドウ糖」

(C) According to section [3], which of the following is **NOT** true?

- ① The bees were trained to associate certain flower colors with different types of liquids.
- ② The bees were observed in a specially designed garden where their movements were recorded.
- ③ Only a handful of honey bees confidently chose the artificial green flowers with ease.
- ④ Generally speaking, each honey bee made a decision whether a flower was a food source or not in approximately 0.6 seconds.

[4] The scientists then built a computer model aiming to *replicate the bees' decision-making process. Upon review, they found the structure of their computer model looked very similar to the physical layout of a honey bee brain.

Dr. HaDi MaBouDi, from the University of Sheffield's Department of Computer Science, said the following:

Each time a bee sets out to collect nectar, for example, it must use tiny variations in color or *odor to decide which

flower it should land on and explore. Each mistake is *costly, wasting energy and exposing the insect to potential dangers. To learn how to *refine their choices through trial-and-error, bees only have at their disposal a brain the size of a *pinhead, which contains fewer than a million *neurons. And yet, they *excel at this task, being both quick and accurate.

*replicate 「再現する」 odor 「匂い」 costly 「手痛い」
refine 「洗練する」 pinhead 「ピンの頭」 neuron 「神経細胞」
excel 「よりよくこなす」

(D) According to section [4], which of the following is true?

- ① Honey bees use subtle clues like color and scent to determine which flowers to visit.
- ② Honey bees have large brains that contains several nerve cells that help them make decisions for flower landings.
- ③ The computer model that the scientists created did not resemble the structure of a honey bee's brain.
- ④ The mistakes made by honey bees save time and energy and can stop experimental procedures from continuing.

[5] In related work, scientists from the University of Sheffield are *reverse engineering the brains of honey bees and other insects to design the next generation of autonomous technology.

Opteran, a *spinout company founded by Professor James Marshall from the University's Department of Computer Science, is developing

lightweight, low cost *silicon brains that enable robots and autonomous vehicles to see, sense, navigate and make decisions like insects do. The company believes its approach to autonomy, called Natural Intelligence, will significantly expand the potential market for autonomous machines and the study of robots.

Professor Marshall, who was also part of the study, said, "Our research has demonstrated how bees are capable of complex autonomous decision making with minimal *neural circuitry. Millions of years of evolution has led bees to have incredibly efficient brains with very low power requirements. This biology can inspire the future of AI."

*reverse engineering 「逆行分析する【例えば、昆虫の脳の構造を分析し、その仕組みをロボットなどの制作に利用すること】」
spinout company 「大学などの研究機関で生まれた研究成果をもとに設立された独立した事業体」
silicon 「シリコン【ケイ素系合成樹脂】」 neural circuitry 「神経回路」

(E) According to section [5], which of the following is true?

- ① Opteran is marketing expensive high-power robotic systems designed for biological research.
- ② Professor Marshall believes silicon bee brains are the most important product of evolution.
- ③ Natural Intelligence requires people to view, recognize, and steer cars and buses to ensure they are autonomous.
- ④ Scientists are using insect brain models to help advance efficient autonomous technologies.

[Adapted and abridged from “Honey bees make rapid, accurate decisions and could inspire future of AI, study suggests.” By University of Sheffield. (*University News*, June 27, 2023.)]

令和8（2026）年度
全学統一入試：前期

英 語

I.	各2点	1. ② 9. ④	2. ③ 10. ②	3. ②	4. ①	5. ①	6. ④	7. ③	8. ②
II.	各2点	1. ② 9. ①	2. ① 10. ③	3. ④	4. ②	5. ③	6. ②	7. ④	8. ②
III.	各3点	1. ②	2. ②	3. ①	4. ④	5. ①			
IV.	各3点	(A) ②	(B) ③	(C) ①	(D) ③	(E) ①			
V.	各2点	(A) ④	(B) ②	(C) ②	(D) ①	(E) ③			
VI.	各4点	(A) ③	(B) ④	(C) ③	(D) ①	(E) ④			
[100点満点]									